

週日の説教

金 大烈 神父 2010年3月17日(水)

《御父の愛に接する豊かな時》

おはようございます

この頃天気はどうなるか分かりませんね。強く激しい風が吹いてきたり、桜が咲いているのに雪が降ったり、いつも急に曇ったり、晴れたりしています。目まぐるしく変わる天気によって左右されて、一番困るのは誰でしょうか。気象庁でしょうか。(笑い)一番困るのは、寝る所さえない人達だと思いますよ。色々な所をあちこち回りながら、寝る場所を探す生きかたをする人達は、全世界に沢山いると思います。けれども私達は、天気が崩れても何があっても、寝る所がありますよね。私達がそのような人々の救いのために、思い出すときには、共に祈りあう姿が必要ではないかと思ってみました。

先週の日曜日、わたしは黙想指導のために渋川に、行って参りましたがけれども、その日の福音の内容は何でしたか。(「え～と、思い出せない」と私達のつぶやきに司祭が思い出せないのですか?と苦笑した)放蕩息子だったでしょう。

なぜ四旬節に入ると、必ず主日の福音の内容のひとつに選ばれるのが、放蕩息子なのでしょう。聖書の中で、父という言葉が時々出てきますね。しかし、旧約ではほとんど出てきません。私達は今日、ヨハネの福音を読んだのですが、新約聖書ではあちこちに父という言葉出てきます。一番多く、3分の2以上、父という言葉が出てくるのはヨハネ書です。ヨハネ書と言えば皆様が「ああ、それは父と子、親子の関係について、よく説明されている書」と思い出せばいいのではないかと思います。

さあ、ともかく、なぜ教会のカレンダーで四旬節に入ると、放蕩息子のたとえ話がされるのか。その話が皆様の前に読まれるのか。それを考えてみますと、そこにはとても深い意味があります。どういう意味でしょうか。人によってお父さんのイメージは全部違いますよね。もちろん、全体的に「お父さんはこのような存在だ」と分かっているのですが。個人個人によって自分が接した、自分が体験した、お父さんのイメージは違います。ある人は、「暴力的で、わがままなお父さん」を思い浮かべ、ある人は、「いつも頼りになる自分の家族を守ってきた人」ある人は、「勇気があって、正義感をもってそれに逆らうものに、いつも力を発揮した」お父さんを思い出し、ある人は、「お父さんはちょっと臆病な面があって、面倒なことは全部お母さんにさせる、自分の妻にさせる」そういう人だったと、さまざまなイメージがあると思います。

ですから、先週の日曜日に、教会が放蕩息子の話を皆様に読むようにしたその理由は、イエス様が教えている父のイメージが、どういうものであるかを知らせるためです。「あなた方は“神様をお父さんとして、父として、アッパ”として考えなければならない、その神様のイメージはこういうものである」とはっきり教えるためです。

放蕩息子の中で示される神様の意味は何でしょうか。多分、二番目の息子が『わたしが頂くことに

なっている財産の分け前をください』(ルカ 15・12)と頼んだ時に、お父さんはすぐ分かったと思います。この子はこのお金を持って出て行ったら、必ず駄目になってしまふ。与えた財産を全部無くするだろうと、すでに分かったと思います。そう思いながらも何も言わずに、分け前をその息子に渡すわけです。そして、その息子は自分なりに頑張ってみたのですが、色々放蕩の生活をして、持っていた財産を全部使い果たし、食べるものにも困ってしまいます。そして、「私は親父の所に行って僕として、雇い人として、働かせてもらえば飢えることはないだろう」と考え、お父さんの所へ帰る決心をしました。聖書にはなんと書いてありますか？ 待っていたお父さんが「遠い所から息子を見つけて走りより、抱きしめた。」とありますよね。

私は灰の水曜日に、皆様に“四旬節は、神様に会う期間です。”と申し上げました。では神様に会うとはどういうことでしょうか。“神様の愛”を体験することです。そして、“神様の愛”を体験した人は悔い改めようとする心がなくても自然に悔い改められます。悔い改めとは意思によって、「私は悔い改めなければならない、悔い改めるものを探さなければならない。」と思うことによって出来るものではありません。悔い改めとは、結局、自分が“神様の愛”に接して、その愛を体験したらしようがなく、出来るものが悔い改めです。「私は悔い改める事があまり見つかりません。」と言う方はまだ“神様の愛”に接したことの無い印かも知れません。

皆様、今日父について、御父についてイエス様がおっしゃいました。

「わたしは自分の意思では何も出来ません。親父の意思に従うことだけです。」というこのイエス様の告白は、御父がどういう存在であり、私達はどのような心で神様を求めるべきかについて、話されているのではないかと思います。

皆様、四旬節は暗い時期ではありません。“神様の愛”に触れて本当に心が「ドキドキ」胸が「ドキドキ」する時期です。

今まで感じられなかった“神様の愛”「ああ、こんなにも私を愛して下さっているのだ」と。その体験が出来る豊かな時期であることを、今日のミサを通して考えてみましょう。

ありがとうございました。